

チャット画面利用ガイド

はじめに

本書は、本サービスが提供するチャット画面の利用方法について説明するガイドです。

チャット画面は以下の機能を提供します。

- 履歴付き一般対話
- ファイルの内容を対象とした会話
- Webコンテンツの内容を対象とした会話
- Web検索した内容を対象とした会話
- 会話履歴の選択
- テンプレートを利用した会話
- 文書検索を利用した会話
 - 回答根拠を確認
 - 推論を用いた回答根拠確認
- 詳細設定(上級者向け)
 - 利用モデルの切り替え
 - システムプロンプトの編集
 - 対話パラメータの設定
- Agentic AIチャットへのリンク

本ガイドの内容は以下のブラウザで動作検証済みです。

- **Microsoft Edge** (バージョン : 137.0.3296.68)
- **Google Chrome** (バージョン : 137.0.7151.103)

推奨解像度: 1280 x 1024 ピクセル以上

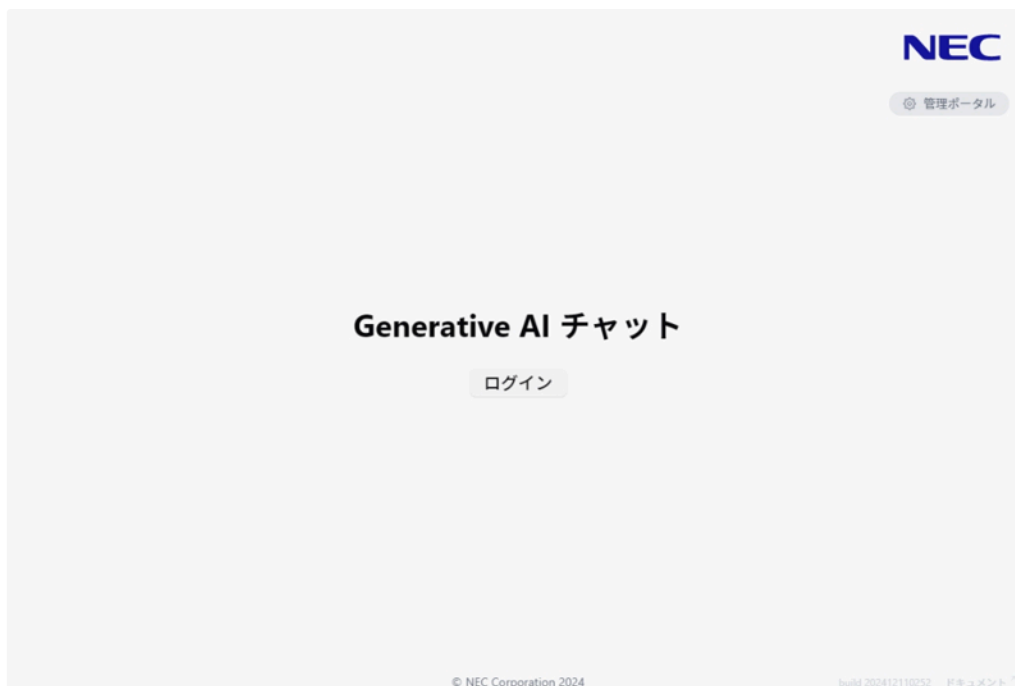
この推奨解像度を下回る環境では、以下のような問題が発生する可能性があります。

- レイアウトが崩れ、操作ボタンや入力欄が見つかりにくい。
- 頻繁なスクロールが必要となり、作業効率が低下する。

ログイン

Webブラウザで以下のURLにアクセスします。

<https://chatapp.genai-api.nec-cloud.com/>



ログイン画面

「ログイン」ボタンを押下すると認証画面に遷移します。管理ポータルにて予め作成済みのアカウントのメールアドレス/パスワードを入力しログインします。



ログイン画面

i もし、アカウントに紐づくテナントが複数ある場合は以下のようなテナント選択画面に遷移します。チャット画面を利用する契約のテナントを選択ください。



ログアウト

ヘッダー右上にあるユーザ名の箇所をクリックすると表示されるメニューから「ログアウト」を選択することで、チャット画面からログアウトすることができます。



チャットによるGenerative AI Cloud (SaaS)との会話

正常にログインすると、チャット画面に遷移します。左のペインの「会話履歴」では、過去の会話履歴を復元し対話を継続することができます。




チャット画面

i チャット画面における会話履歴は、履歴付き対話APIからも取得可能です。履歴付き対話APIを実行する際のHTTPヘッダ `x-nec-genai-client-id` に、チャット画面のログインに使用したユーザID(メールアドレス)を指定してください。

ファイルの内容について会話

ファイルを選択することで、指定したファイルの内容について対話することもできます。ファイル添付アイコンをクリックしてください。

ファイル添付アイコンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。対象となるファイルをドラッグ&ドロップまたは、 アイコンをクリック、ファイルを選択し、確定ボタンを押下します。

- i** .pdf, .txt, .docx, .xlsx, .pptx, .jpg, .jpeg, .gif, .png, .webp です。.txtファイルはUTF-8形式をサポートします。
- 画像ファイルを選択した場合、画像入力に対応していないモデルを指定すると対話時にエラーとなります。GPTまたはClaudeなどの画像入力に対応するモデルをご利用ください。利用モデルの切り替え方法は後述の手順をご参照ください。



ファイル添付アイコン



i 1回の対話で最大5つのファイルまで指定することが可能です。

ファイルを選択すると対象となるファイルが表示されます。この状態でメッセージを送信することでファイルの内容について会話をすることができます。



■ 本機能を利用する場合、以下の点に注意ください。

- 本機能を利用する場合、後述の「Webコンテンツの内容について会話」、「Web検索した内容を対象とした会話」を併せての利用ができません。

Webコンテンツの内容について会話

URLを入力することで、指定したWebコンテンツの内容について対話することもできます。URL入力アイコンをクリックしてください。



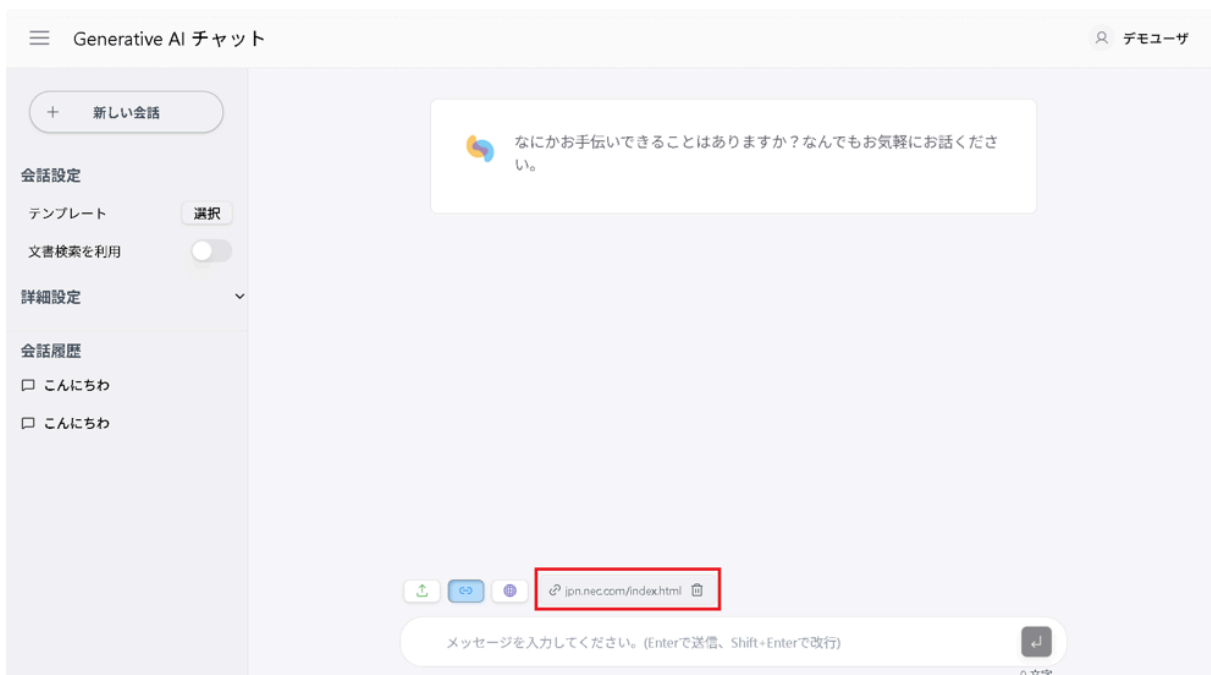
URL入力アイコン

URL入力アイコンをクリックすると、URL入力ダイアログが表示されます。対象となるWebコンテンツのURLを入力し、確定ボタンを押下します。



i URLにはhttp://またはhttps://から始まるhtmlで記載されたWebコンテンツのみ指定できます。1回の対話で最大5つのURLまで指定することが可能です。

URLを入力すると対象となるURLが表示されます。この状態でメッセージを送信することでWebコンテンツの内容について会話をすることができます。



i 本機能を利用する場合、以下の点に注意ください。

- 本機能を利用する場合、前述の「ファイルの内容について会話」を併せての利用ができません。
- 本機能を利用する場合、後述の「Web検索した内容を対象とした会話」を併せての利用ができません。

Web検索した内容を対象とした会話

Web検索した内容について対話することもできます。Web検索アイコンをクリックしてください。

- i** 本機能は、事前に管理ポータルにて「Web検索設定」を有効化し、検索エンジンを選択のうえ、APIキーを入力することにより利用可能になります。



Web検索アイコン

Web検索アイコンをクリックすると、検索キーワード入力エリアが表示されます。検索キーワードを入力します。検索キーワードを複数入力したい場合には、スペース区切りで入力してください。



検索キーワード入力エリア

検索キーワードを入力した状態でメッセージを送信することで、指定した検索キーワードに基づいたWeb検索内容について会話をすることができます。



📌 本機能を利用する場合、以下の点に注意ください。

- 本機能を利用する場合、後述の「利用モデルの切り替え」を参照し、利用モデルを「cotomi v3」「gpt-4o」「gpt-4o mini」のいずれかに切り替えてからご利用ください。
- 本機能を利用する場合、前述の「ファイルの内容について会話」、「Webコンテンツの内容について会話」を併せての利用ができません。
- 会話履歴から「Web検索した内容を対象とした会話」を再開した場合、会話内容は復元されますが、Web検索した際の参照サイトは復元されません。

テンプレートを利用した会話

管理ポータルで予め作成したテンプレートを用いてLLMと会話をすることができます。利用可能なテンプレート一覧を表示するには設定項目「テンプレート」の右側の「選択」ボタンをクリックします。

i テンプレートの作成や編集は「組織管理者」の役割をもったユーザのみ可能です。作成や編集を行うには管理ポータルにログインします。



テンプレート一覧画面の呼び出し操作

利用可能なテンプレート一覧が表示されます。テンプレートを利用するには、テンプレート名（例えば、翻訳（日⇒英））の箇所をクリックします。



テンプレート一覧

選択したテンプレートが左ペインに表示されます。この状態でメッセージを送信することでテンプレートを利用した会話をすることができます。



テンプレートを利用した会話

文書検索を利用した会話

LLMと予め登録した文書を用いた会話をすることができます。利用するには設定項目「文書検索を利用」の項目を有効化し、管理ポータルで予め作成したインデックスを「検索対象」から選択します。

- ・本機能はオプションメニュー「情報検索（RAG）」をご契約いただくことにより利用可能になります。
- ・インデックスの作成や文書登録は「組織管理者」の役割をもったユーザのみ可能です。作成や登録を行うには管理ポータルにログインします。
- ・インデックスは複数選択することができます。



文書検索を利用した会話

■ 文書検索を利用する場合、以下の点に注意ください。

- ・「会話履歴」が保存されません。
- ・以前の対話を踏まえた会話はできず、一問一答の対話になります。
- ・文書検索とテンプレート機能と併せて利用する場合、選択するテンプレートは「システムテンプレート（検索対話）」をコピーして作成したテンプレートである必要があります。
- ・文書検索を利用する場合、前述の「ファイルの内容について会話」、「Webコンテンツの内容について会話」、「Web検索した内容を対象とした会話」を併せての利用ができません。
- ・文書検索を利用する場合、後述の「システムプロンプトの編集」を併せての利用ができません。

回答根拠を確認

本機能を用いることで、文書検索を利用してLLMから得られた文章に対し、その根拠となる元の文章を確認することができます。LLMが生成した文章の正確性を効率的に確認することが可能となり、人的な確認作業の負担を軽減します。

本機能を利用するには、会話設定「文書検索を利用」を有効化し対話後に表示される「回答根拠を確認」ボタンをクリックします。



「回答根拠を確認」ボタン

「回答根拠を確認」ボタンをクリック後に分析処理が実行されます。分析処理が完了すると回答根拠が確認できた文章に対して下線が表示されます。下線部をクリックすることで、回答の元となった文書名および文章を確認できます。

黄色ハイライトされた箇所が回答の根拠となった文章です。「関連度」は、数値が高いほど回答の根拠となった度合いが大きいことを表します。また、下線が表示されていない文章は後述する設定で指定した閾値を満たす回答根拠が見つからなかったことを示しています。



回答根拠の表示

本機能では以下のパラメータが設定可能です。

設定項目	説明	値
回答根拠の判定における閾値	この設定で指定した値より小さい関連度の文書を根拠として表示しません。高い値を指定するほど回答根拠の判定が厳密になる一方で、根拠として表示する文書が少なくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • 範囲：0.8～1.0 • デフォルト値：0.85

推論を用いた回答根拠確認

本機能を用いることで、文書検索を利用してLLMから得られた文章に対し、回答根拠の有無の確認・その判断の根拠を確認することができます。LLMが生成した文章の正確性を効率的に確認することが可能となり、人的な確認作業の負担を軽減します。

本機能を利用するには、会話設定「文書検索を利用」を有効化し対話後に表示される「推論を用いた判定」を有効化してから「回答根拠を確認」ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Generative AI チャット' interface. On the left, there are settings for '会話設定' (Conversation Settings), including '文書検索を利用' (Use Document Search) which is turned on. The main chat area displays a conversation history with a red box highlighting the '推論を用いた判定' (Inference-based Judgment) toggle, which is currently turned on. Next to it is a blue button labeled '回答根拠を確認' (Confirm Answer Basis). Below the chat area, there is a '回答を再生成' (Regenerate Answer) button and a text input field with a character count of '0文字'.

推論を用いた判定に切り替え

「推論を用いた判定」を有効化後に「回答根拠を確認」ボタンをクリックすると分析処理が実行されます。分析処理が完了すると「回答根拠あり」の文章は緑色、「回答根拠なし」の文章は赤色にハイライトされます。文章の下線部をクリックすることで、回答根拠の有無、その理由、判断根拠となる回答の元となった文書名および文章を確認できます。



回答根拠と判断理由の確認

詳細設定（上級者向け）

- ❗ 以降の節では、LLMに関するパラメータの意味や利用方法を理解されている方向けの設定について説明します。設定内容によっては対話がエラーとなったり、文章として成立しない応答になる可能性がありますのでご注意ください。

利用モデルの切り替え

会話に利用するLLMのモデルを変更するには、詳細設定項目「モデル」のプルダウンからモデルを選択します。利用可能なモデルは、時期やご契約いただいているプランにより異なります。



利用モデルの選択

システムプロンプトの編集

LLMとの会話を任意にカスタマイズしたい場合、会話に用いるシステムプロンプトを編集することができます。システムプロンプトを編集するには詳細設定項目「システムプロンプト」の右にある「編集」ボタンをクリックします。



システムプロンプト編集画面の呼び出し操作

任意のシステムプロンプトを入力し「反映」ボタンをクリックすることで、システムプロンプトを変更することができます。



システムプロンプトの編集画面

対話パラメータの設定

会話に利用するパラメータは、詳細設定項目「回答の最大トークン数」「回答生成のランダム性」の2つを指定することができます。

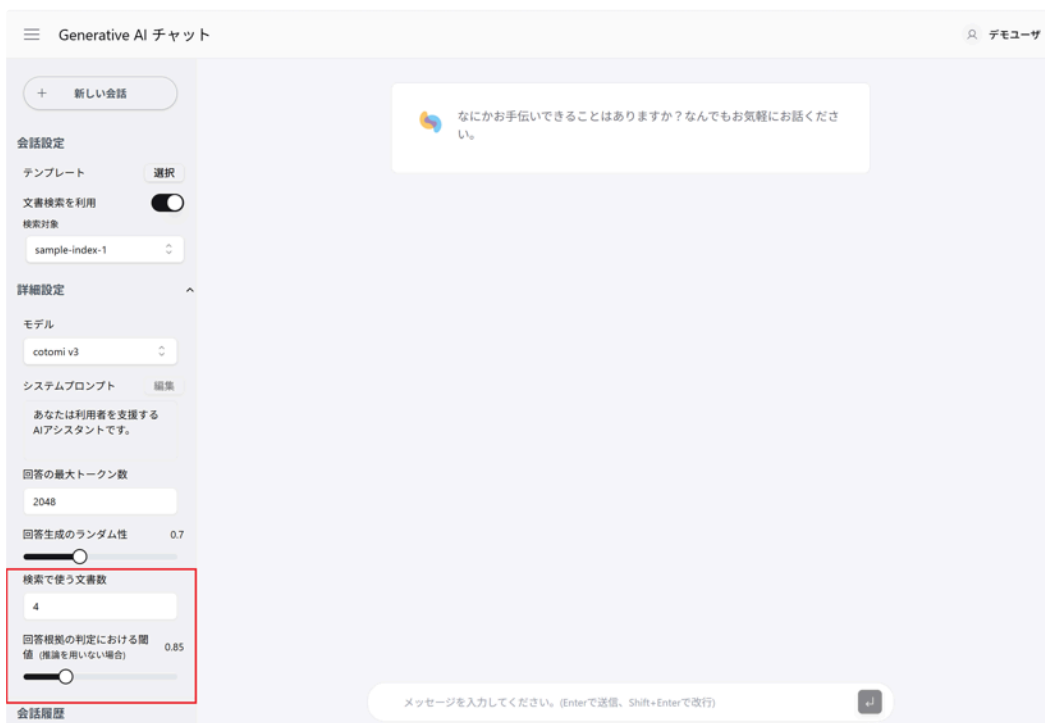


対話パラメータの設定

設定項目	説明	値
回答の最大トークン数	モデルが生成するテキストの最大の長さを指定します。モデルが認識するトークン数でのカウント	<ul style="list-style-type: none"> 範囲：1以上の整数

	となるため文字数とは異なります。大きな値を指定しすぎるとエラーになることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> デフォルト値：2048
回答生成のランダム性	<p>モデルが生成するテキストの「ランダムさ」や「創造性」を調整します。大きな値を指定するほど生成されるテキストが多様になり、低い値を指定するほど一貫性が高くなります。</p> <p>モデルに o3, o4-mini, gpt-5, gpt-5-mini, gpt-5-nano-us を指定した場合、本設定は設定不可となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 範囲：0.0 ~ 2.0 デフォルト値：0.7

文書検索を利用した対話を行う場合、上記2つに加えて、「検索で使う文書数」「回答根拠の判定における閾値（推論を用いない場合）」を指定することができます。



設定項目	説明	値
検索で使う文書数	インデックスに含まれる文章のうち、検索された文章の上位何件を元に回答作成するかを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> 範囲：1~20の整数 デフォルト値：4

回答根拠の判定における閾値（推論を用いない場合）	本設定は 回答根拠の確認 に関するものです。返却する回答根拠の閾値を指定します。指定された閾値を下回る回答根拠は結果は返却されなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • 範囲：0.8 ～ 1.0 • デフォルト値：0.85
--------------------------	--	---

Agentic AIチャットへのリンク

ヘッダー左上のハンバーガーアイコンをクリックすると表示されるメニューから「Agentic AIチャット」を選択することで、Agentic AI チャット画面へ遷移することができます。

- ① 本機能はオプションメニュー「情報検索（RAG）」をご契約いただくことにより利用可能になります。

